

学校運営評議委員会 まとめ

自己評価に対する学校運営評議委員会の評価

○項目ごとの評価

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	平均
学力向上	C	B	B	A	B	B	A	B	B	B 2.1
人間関係力の向上	A			A	A	A	A	B	B	A 2.7
組織運営の充実	B	B		A	A	A	A	B	B	A 2.5
教育環境の整備・充実	A	A		A	B	B	A	B	A	A 2.6
義務教育学校の推進	A			A	B	B	A	B	B	B 2.4
家庭や地域との連携		A	A	A	A	A	A	A	B	A 2.9
総合評価				A	B		A	B	B	B 2.4

※平均は、各項目 A 3点、B 2点 C 1点で計算し、 2.5 以上でA 1.5 未満でCとした

○評議員の意見（全意見）

学力向上

- ・「わかる・できる」授業をめざすのではなく、子ども自身が「わかるようになりたい・できるようになりたい」という“学びに向かう力”を育てる授業をめざしてほしいと考えます。→わかる授業のために教師は何かかわからせようとして、一方的な教え込みになりがちです。
- ・④社会への関心⑤調べる⑥読書⑦不思議の4つの低評価の項目は、いずれも「学びに向かう力」や探求力につながる部分です。発表会の授業でも感じましたが、教師があまりにもつまづかないように「きめ細やかな指導」をしすぎていて、子どもの主体的な学びという点では課題があるように見えます。「主体的な学び」の姿とは何か？地域や保護者を交えてとことん熟議する必要があります。（保育所も含めての15歳までの育ちの姿として）
- ・「きめ細やかな指導」とは、教師がていねいに指導（教える）するのではなく、きめ細やかな「みとり」を行い、一人一人のニーズに応じてカリキュラムをデザインして支援することだと思えます。そのうえで目標管理シートは素晴らしい取り組みと思えます。
- ・児童、生徒の変容した姿を通して検証していきたいが、教職員が感じる内容と微妙に違う。
- ・宿題、課題等＝児童生徒は提出すれば良いと考えているのではないか

- ・先生方が個々の学力、細かいところが分からないのでは？
- ・解答をいっしょに配布、採点では、提出さえすれば良いと子どもたちを見ていて感じます。
- ・日常的に子どもの主体性（学びの主体者）が尊重される授業研究、実践
- ・子どもとともに創造していく（授業内容の幅（間））
- ・子どもの「わからない」、そのわからなさの分析、個々の分析、3者が伸びを見えるように。
- ・学力向上について比較評価の数字等が評価として示してほしい。
- ・大島学園として6項目で構成（重要目標）比率が知りたい。
- ・学力テストが平均以上という話を聞いたので、まだ結果は出ていないのだろうと思ってBにしました。
- ・我が子を見る限り、書かれてる通り読解力や書く力は向上させていく必要があるなど感じる。
- ・昔に比べ学習への意欲はあるのではないかと感じる。
- ・目標管理シートの成果が出るのが楽しみです。

人間関係力の向上

- ・1学期に来た時よりもあいさつが気持ちよくなっています。ただ、大人でなく、子ども同士はできていますか？
- ・児童・生徒の活動をつぶさに見ているわけではないので書きがたい
- ・1年～9年の人間関係の「関係性の構築」あてにされる関係・自己受容感 等
- ・時々、小中学生と合うがあいさつをされたことがない。
- ・人数が少ないので目が届きやすく、いじめなどのトラブルに対処できてよさそう。
- ・小さなコミュニティで生きているので、外でのコミュニケーションはちょっと心配です。
- ・子どもと先生とのキョリ感がちかいので安心している。
- ・子ども同士のつながりは強く、年齢を越えて助け合えていると思います。

組織運営の充実

- ・小規模校・離島の特性を生かした教師の協働のあり方や同僚性の構築が必要と考えます。（一般校にはない小規模校の組織マネジメントとは何か）風通しのよいチーム
- ・本日は校長先生の Vision とロマンを語ってもらいました。「ライン」の下で押し付けあうのではなく、「チーム」として一人一人が当事者意識をもって Vision の実現に向けてがんばってほしいです。
- ・組織と分掌が個々の子どもたちの成長を担保するものになっているのか不明
- ・教師としてのやりがい（働きがい）支えあい そして 質の向上に、今「同僚性」が問われていると考える。 職員集団、専門性
- ・児童・生徒がよく知っているどうしなので、組織として協力するのは上手だと思う。
- ・先生同士のコミュニケーションがとれているのではないかと思う。
- ・学校内の事は良くわかりませんが、小中一つの雰囲気を感じます。

教育環境の整備・充実

- ・ 掲示物を通して児童・生徒の姿が見える・・・そのような工夫がされている。
- ・ 子どもたちにとっても 教師にとっても 共同して使用する学習・生活空間を協働して整備（そうじ、美観（四季をとりこむ））して環境づくりに主体的に取り組んでいくことは大切な視点である。
- ・ 一部校舎設備の老朽化がきになる。
- ・ 教室内にも写真や作品が飾られていてとてもいいと思う。
- ・ 学校内キッチンと整理されていると思います。
- ・ 自ら掃除を進んでする事が出来るのは素敵だと思った。
- ・ 掲示物の作成や委員会活動も子ども達のアイデアでたくさん動いてほしい。

義務教育学校の推進

- ・ 今日の保育所での英語活動（保小連携）はすばらしかったです。子どもの図形、色を使ったクリエイティブな活動から英語を引き出してつなげている。子どもも「アース！」「ネイル！」と使いこなして“身体化”している。→花田先生の指導スタイルは子どものクリエイティブな活動から英語コミュニケーションを引き出すスタイルです。研修で共有したらいかがでしょうか？
- ・ ここで意見として出せる種のものはない。今少し、授業の内容を知ってみたい。
- ・ 英語の勉強をしているけど、実際に外国人に話しかけたりはしないので、使える英語になったらいいと思う。
- ・ ふるさと学習・大島ならではの行事が年々、子どもたちの参加がへってきている所あるのが少しさみしい。
- ・ 詳しくは知りませんが、義務教育学校の体制が整えられていると思います。
- ・ 1年生からの英語の授業は子ども達も楽しいようです。もっともっと英語が好きになり、9年生になって他校とは違う力をつけてほしいです。

家庭や地域との連携

- ・ 児童、生徒の姿から地域が活性化していった事例が多くあり感謝している。
- ・ 乳幼児期からの育ちの視点をぜひとり入れていきましょう。なぜなら、子どもは1年生から始まるのではない、“学びの芽”となる乳幼児期の育ちからあると考えるからです。
- ・ 地域活動への参加は少人数にもかかわらず、多くの行事に参加していただいている大島の行事を盛り上げていただき大いに評価できる。その他については評価できない。
- ・ 地域や家庭とはよく連携しているように見える。
- ・ HPなどで学校の様子が細かくわかり、保護者も学校での雰囲気伝わりやすくいいなと思います。
- ・ 地域との連携は良く行われていると感じます。
- ・ 地域行事に参加して、地域の方とコミュニケーションをとる事は大切なことだと思うので、続けてほしい。

評価項目以外のもの

- ・子どもの主体性や自己決定の力の育成をしてほしい。
- ・子どもにとことん考えさせるところはどこか？明確なねらいを持った授業デザインを！
→6年生と一緒にフィールドワークをしました。広田さんのたくみなガイドで子どもの知らなかった情報があって、子どもたちはたくさんメモを取ってました。ただ、それが“問い”にならない？ なぜ？ どうして？ どうやって？ よくわからん？ どうゆうこと？ のつぶやきの対話が少なかったように思います。「疑問をもってはいけない。批判をしてはいけない。」という学びの文化になってしまっていないでしょうか？
- ・地域の教育力（ヒト・モノ・コト）の活用がなされればいいと思う。
とりわけヒトの部分についての工夫がほしい。（2年度の構想の中には挙げてあるようだが）
- ・成果と課題を「できた・できない」に留まらず、学校経営に生かす方法はないだろうか
→過程の評価 家庭の中で生まれた方法・挑戦・ に価値づけする。
- ・研究発表会での全教師で生徒の主体性を捉えて実践した成果を日常の授業の中でどのように生かしているか
- ・探究心 目的意識 ・対話、問い なぜ？ どうして？ の必然性 応答的な学び（あい）